

第2回税制調査会後の記者会見録

日 時：平成25年8月5日（月）16時06分～

場 所：財務省記者会見室

○中里会長

本日の会議は、冒頭から公開しているために皆さん全部お聞きになって御案内のとおりだと思いますが、御出席いただいた大臣からそれぞれ御挨拶をいただきまして、その後に事務方から税や財政の現状について簡単に説明を受けた後、御出席の委員や特別委員の皆様から税に対するお考えや御意見等を御発言いただきました。

委員や特別委員の皆様から、これまでの御経験等も踏まえ、幅広い観点から大変に貴重な御発言をいただき、全体的にとっても有意義な会議になったと思います。

最後にまとめのところですが、私の方から委員の方々に対して2つのことを申し上げます。

1つは、審議内容については前回の諮問の内容や総理のお言葉、それから、本日の麻生大臣の御発言等を踏まえて、まず、国際課税やマイナンバー等の税務執行上の課題を中長期的な視点から議論していきたいということです。

2つ目は、具体的な審議の進め方やスケジュールについては、本日、委員の皆様からいただいた御意見等を踏まえながら、私のほうで整理をさせていただきたいということです。

この2つを申し上げます。

次回の会議につきましては、秋に開催したいと考えています。

以上です。

○記者

それでは、3点ほどお伺いさせていただきたいと思います。

まず、今回の会議の中で、委員の御意見として、消費税は予定どおり引き上げるべきだとの意見がほとんどを占めていたかと思います。

政府内では、総理が秋に最終判断するという事になっているのですが、慎重な意見も一部では出始めているようです。これについて中里会長はどのようにお考えでしょうか。

○中里会長

これは、私は法律家ですから、今年の秋に税制抜本改革法の附則の18条に則って、経済状況等を総合的に勘案して、政府においてしかるべく判断がなされるのではないかと思います。

したがって、消費税率引き上げの判断については、政府税調として中長期的な課題として特定の方針を示すことは総理の諮問にも無かったということで、そういう判断は求められていない。こういうふうに認識しております。

ただ、委員の方々の御意見は御意見として、皆様がお聞きになったとおりです。

○記者

次に、政府税調の位置付けに関してですが、一部委員の方から、位置付けが不明確なので、早期に明確にしてほしいとの御意見が出ました。恐らく自民党税調との役割分担についての御指摘だったかと思うのですが、このことについて改めて、会長はどのようなお考えなのか。政府税調の役割について改めてお考えをお聞かせください。

○中里会長

一国の政策決定のプロセスのあり方については、お立場お立場で様々なお考えがあるのではないかと思います。それはそれとして、政府税調は、今の設置法令の定めを見ますと、総理の諮問機関でありまして、総理の諮問を踏まえ、中長期的な視点から主として学術的・専門的な議論を行って、その総理の諮問にお答えするのが役割です。したがって、与党税調と政府税調の役割分担について、特に不明確であるとは思っていません。

というのは、国会議員の方々がメンバーである税制についての審議機関があり、それとは別に総理の諮問に答える我々の税制調査会があるということであり、我々は諮問に答えるというかたちになっています。

国会議員の方がメンバーとなっている審議機関は、今ですと与党税制調査会、前政権の下では政府税調がそれだったわけです。

日本国憲法の下では、税制は国会で法律という形で議決されることになっていきますので、国会議員がメンバーとなる税制についての審議機関では、具体的な問題をどう処理するかということがまさに役割ではないかと思っておりますが、それを党税調は粛々とされているわけです。これに対して、私どもは、総理の諮問を踏まえ、それについて中長期的に、専門的に、こうしていくということを申し述べるということで、役割は明確に決まっているのではないかと思います。昔からそうですし、これからもそうであろうと思っております。

○記者

最後に、法人税の実効税率について、委員の方の意見の中では意見が分かれる部分もあったかと思うのですが、引き下げを求める声もかなり経済界の方々、あるいは学識経験者の方の御意見もありましたが、それに関して会長は、今、どのようにお考えでしょうか。

○中里会長

税制全般について、中長期的に、学術的・専門的な観点から諮問にお答えすることですので、個別の税目の税率をどうするかに関して、すぐ来年度の税制改革の問題の中で、そういう短期的な話として扱うのは、政治家の先生方をメンバーとする機関、与党の税制調査会でなさるべきことではないかと思っております。そういう問題について、即、我々の目先のテーマとして議論するということにはなりにくいのでは

ないかと思えます。

ただ、議論が全く出ないということではないでしょうから、そのときには皆さんの意見をお聞きしてということになるのではないかと思えます。

○記者

今、3番目に出た質問に関してなのですが、政府税調の中で法人税の実効税率の引き下げについて、スタンスが分かれているという印象を会長としてはお持ちでしょうか。

それから、会長御自身の法人税の実効税率の引き下げについての御見解、まだ今の段階ではなかなかお話ししにくいかもしれませんが、お話ししていただける範囲でお伺いできればと思えます。

○中里会長

その問題について、御欠席になった方は別として、今日、御出席になられた全ての委員の方のお考えについては、それが分かれているのか、分かれていないのか、それも含めて、皆様お聞きになったとおりです。

それをどうしていくかに関しては、今後の流れの中で決まっていくのですが、とりあえず、今日は私も、御出席になられた全ての委員の方々からああいう実に率直な御意見をお聞きすることができて、非常によかったと思っています。

私自身がどう思うかですが、研究者としての私の考え方は、前回も申しあげたとおり、論文がありますので、そちらをご覧になっていただければと思えますが、今、この記者会見で政府税調の会長という立場から申し上げるのは、それは諮問にも無いことですし、すべきではなからうと思っていますので、申し訳ございませんが、お許しください。

○記者

今日、麻生副総理からも話がありましたが、マイナンバーと国際課税について、まず入り口として入っていただければと。それで、中長期的なものについても議論していただければと。

多分、アジェンダとしては大きく2つあるのですが、そこをまず、次回、どういう議論をやられて、中長期に関しては後々の話ですが、例えばマイナンバーと国際課税については秋口とか秋から冬にかけて何かまとめを出されるとか、イメージとして、この先、どういうふうに進めていきたいとお考えか、教えていただけますか。

○中里会長

国際課税の問題も、マイナンバー等の税務執行の問題も、なかなか短期間に簡単に結論の出るようなテーマではないと思えます。

議論自体は秋口から始めることになると思えますが、それがどのくらいかかるかに関しては、特に国際課税の問題についてはG8とかOECDの議論等も踏まえたほうが良いと思えますので、どのくらい時間がかかるかに関して、今のところはわからないので

すが、少なくとも3年後の、この税制調査会の答申を出す段階ではしかるべくまとめたかと思っております。

○記者

別々に出されるのか、一緒に出されるのかというイメージも今のところはないということでしょうか。

○中里会長

答申というのは最後に1つ、卒業論文のようなものを出すわけでしょうが、その中にテーマが幾つかあるということなのでしょう。

○記者

言葉が余り正しくないかもしれないので、答申とは限らず、例えば別出しして、マイナンバーと国際課税だけ何か出されるようなイメージはないのかという質問です。

○中里会長

前は諮問を頂戴して顔合わせでしたし、今回は皆さんに思いのたけを述べていただくということですから、今の段階で私が先走って、このくらいの日程感覚で、こういうものをこういうふうにまとめてということをお願いするのは早過ぎると思います。これから考えながら、またいろいろな方に御相談しながらやっていきたいと思っています。

○記者

新浪委員が小委員会みたいなものと言われていましたが、それは良いアイデアでしょうか。悪いアイデアでしょうか。

○中里会長

お分かりのとおり、総会はとても重要です。全ての委員の方が自分の御意見をお持ちで、発表なされたいという気持ちを強くお持ちだということが分かって、私はとてもうれしかったです。ですから、あのような総会は今後もできるだけきちんと開いていきたいと思っています。

同時に、委員や特別委員の皆さん、全員同じお考えだと思いますが、皆さんの御意見を聞いていると時間がものすごくかかる。それから、実質的な審議はなかなかできないということもありますので、そこはバランスの問題で、何と呼ぶか、どういう形にするかはわかりませんが、少し分けて行うというのも一つの方向性としてあるのではないかと思います。

○記者

今日いろいろ先生方から御意見があったと思います。改めて会長の口から、どういったことを皆さんが問題意識とされていると受け取って、それを政府税調に生かしていきたいかというところを、今、思い描いているところがあれば聞かせてください。

○中里会長

非常に多種多様な御意見が出て、どなたの御意見を私がどう思ったということに関

して、今、ここでは申し上げないほうが、まだ整理もついておりませんし、どの委員の方がどうということでもありませんので、今はそう簡単には要約しないで、ありのままを報道していただいて、そして、国民の方がインターネット等でご覧になっていただいて、そういうものも見ながら少しずつ考えていきたいと思っています。

○記者

逆に、どういった意見が多かった、どういうところに皆さんの関心があったという受けとめはありますか。

○中里会長

時間配分とかの関係で冷や冷やしており、必ずしも統計をとっていたわけではないので、そこは簡単には言えないのではないかと思います。全員がこういうことを言ったということでもありませんし、多くの方がこう言ったというのがあったとしても、それでは、黙っている方はそういうお考えかどうかは分かりませんので、その辺は皆さんのお考えで、皆さんのお聞きになったように御判断なさるということではないかと思えます。

[閉会]